

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

天城町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

鹿児島県大島郡天城町

3 地域再生計画の区域

鹿児島県大島郡天城町の全域

4 地域再生計画の目標

天城町は、奄美群島のほぼ中央に位置する徳之島にあり、島のほぼ西半分を占める町である。主な基幹産業は農業で、さとうきび・馬鈴薯・生産牛を中心に、マンゴーやパッションフルーツ等の熱帯果樹、お茶などが生産されている。

徳之島は、世界自然遺産の候補でもある貴重な自然を有する他、400年以上前から続く闘牛や島唄などに代表される伝統文化など、魅力的な資源が多くある。

本町の人口は1950年の13,043人をピークに、5,975人（2015年国勢調査）まで落ち込んでおり、半世紀にわたり減少が続いている。住民基本台帳によると2020年12月には5,806人となっている。国立社会保障・人口問題研究所の人口推計によると、2045年には3,948人になると推計されており、2015年比で総人口が約66.1%となる見込みである。また、人口減少とともに少子高齢化も進行しており、2015年の国勢調査において、総人口に占める老年人口（65歳以上）割合は33.4%にまで増加する一方、総人口に占める年少人口（0～14歳）割合は14.3%にまで低下している。高齢者の増加に伴う自然減の減少幅は拡大傾向にあり、2018年には死亡数が出生数を81人も上回っている。合計特殊出生率をみると、2013年から2017年において2.0を超える数値で推移している。国や県の数値が概ね横ばい推移している一方、2017年では2.63となっており、比較的高い水準で推移している。

2018年には「15～19歳」階級で38人が転出超過となるなど、若年層の進学や

就職に伴う島外転出による社会減の多い本町においては、人口減少とともに少子高齢化が加速し、地域経済の縮小や生活関連サービスの撤退、雇用機会の減少が想定され、さらなる悪循環が懸念されている。

将来にわたって町民がいきいきと暮らし続けるまちを維持するためには、地方への移住ニーズを的確に捉えた移住定住施策、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる施策、本町の持つ魅力を最大限生かしたしごとの創出などが喫緊の課題である。

これらの課題に対応するため、本計画期間において下記の基本目標を掲げ、積極的に町内外の多様な人材・組織と連携を図りながら、人口減少と少子高齢化に歯止めをかけるとともに、地域経済の活性化と持続可能なまちづくりを目指す。

基本目標 1 天城町で暮らすすべての人が活躍できるしごとを創る

基本目標 2 多様な「関係人口」を増やし、地域力を高める

基本目標 3 子どもに、家族に、地域に優しい子育てを実現する

基本目標 4 豊かなシマを守り、次世代へつなげる地域をつくる

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与 する地方版 総合戦略の 基本目標
ア	農畜産物生産額	4,012百万円	4,500百万円	基本目標 1
	とくのしま漁業協同組合員 数(天城支所)	87人	95人	
	町内における新規起業件数	2件	5件	
	徳之島への空路及び海路 入域客数	137,297人	162,000人	
イ	人口の社会増減	+33人	+50人	基本目標 2
	ふるさと納税寄附金額	45,056千円	200,000千円	

	徳之島への空路及び海路 入城客数（再掲）	137,297人	162,000人	
ウ	婚姻数	21組	21組	基本目標 3
	出生数	54人	55人	
エ	集落行事を伝承している 集落数	14集落	14集落	基本目標 4
	思いやりクリーン作戦 活動件数	—	154件	
	思いやりクリーン作戦 活動参加者延べ人数	—	3,000人	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

天城町まち・ひと・しごと創生推進事業

- ア 天城町で暮らすすべての人が活躍できるしごとを創る事業
- イ 多様な「関係人口」を増やし、地域力を高める事業
- ウ 子どもに、家族に、地域に優しい子育てを実現する事業
- エ 豊かなシマを守り、次世代へつなげる地域をつくる事業

② 事業の内容

- ア 天城町で暮らすすべての人が活躍できるしごとを創る事業

本町の地域経済を支えてきた農業のさらなる振興に加え、水産業への支援を強化し、第1次産業の持続的発展を目指すとともに、製品の収益力強化と経営基盤の安定化、担い手の育成・自立につながる施策を講じる。

さらに、第1次産業の付加価値を高めるために、消費者ニーズを捉えた特産品開発や加工品製造などの6次産業化と併せて、地産地消を推進し、町内・島内における循環機能を高めることで地域経済の活性化を図る。

観光産業については、2021年夏に見込まれる世界自然遺産登録の機会を逃すことなく、本町の魅力ある資源を活かした観光コンテンツのブラッシュアップと情報発信に取り組み、持続性の高い産業へと育てる施策を講じる。

また、働き方が多様化する現代において、世代・性別を問わず、誰もが理想とする創業・就労を支援する施策を拡充するだけでなく、地元企業をはじめとした様々な民間事業者と連携し、活躍できる機会の創出と官民一体となった地域経済活性化に取り組む。

【具体的な事業】

- ・ 大学や民間と連携した第1次産業活性化
- ・ 地域製品の販売力向上事業
- ・ サテライトオフィスや企業の誘致 等

イ 多様な「関係人口」を増やし、地域力を高める事業

本町では、特に20～30歳代の若い世代で転入超過の傾向がみられることから、同世代のUターン者やIターン者の移住を推進する施策に取り組む。

移住に関する施策については、ホームページやSNS、都市圏で開催されるイベント等を活用し、本町の「シマ暮らし」の魅力を伝えるとともに、住環境に関する情報を充実するなど、移住希望者が安心して本町に移住できるよう情報発信を強化する。また、定住促進に向けた施策においては、民間企業や金融機関等との連携により、住環境の充実化を図る。

庁内に新設される「ふるさと創生室」を中心とした様々な取組を通じて「天城町ファン」をつくり、ふるさと納税寄付者など本町の関係人口の増過に取り組む。

【具体的な事業】

- ・ 移住支援施策の拡充
- ・ 定住支援施策の拡充
- ・ 島外に向けた天城町PR強化 等

ウ 子どもに、家族に、地域に優しい子育てを実現する事業

婚活を後押しする人材を確保・育成するとともに、婚活イベントの開催等により、出会いの機会創出に取り組む。

子育てと仕事との両立に向けた支援や地域で子どもを見守る活動など、子育て世帯の不安を解消し、妊娠・出産・子育てが安心してできる環境づくりを推進する。

教育では、離島のハンデ解消に向けた学習環境の充実や郷土を識る機会を提供し、将来の日本を支え、新しい時代において活躍する力を育てるとともに、郷土愛に満ちた若人の育成を支援する。

【具体的な事業】

- ・子育て交流環境整備
- ・樟南第二高校と連携した取組の強化 等

エ 豊かなシマを守り、次世代へつなげる地域

本町の宝である「ユイの精神」は、豊かな社会の実現に向けた「共助」や「共生協働」の取組につながっている。貴重な地域資源である伝統文化、歴史、豊かな自然等について、地域の先輩から学び、体験し、受け継いでいくサイクルをつくることで、郷土への愛着と誇りを育み、次世代に継承し、豊かな社会と持続性の高い地域の実現を目指す。

生活の質の向上など、豊かな社会の実現に向けた取組については、本町だけでなく徳之島全体・奄美群島全体で取り組み、町内外で連携しながら進めていく。

【具体的な事業】

- ・地域の伝統文化継承支援
- ・多世代交流拠点づくり 等

※なお、詳細は第2次天城町まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

20,000 千円（2021 年度～2024 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

外部有識者で構成する「天城町総合戦略推進会議」において、効果検証を毎年度9月に行う。同会議からの意見等を踏まえつつ、必要な見直しを行い、翌年度以降の取り組み方針に反映する。検証後速やかに天城町公式ホームページ上で公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで

5-3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで